

# 【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

## 演 題 **Information Exchange**

演者名 川内大輔

日 付 2013年6月25日

### keywords

1. 治療ゴールのイメージ
2. 咬合再構成
3. ラボコミュニケーション

審美性と機能性を兼ね備えた精度の高い補綴物を、患者に提供するためには歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士の連携が必要であるというのは周知の事実である。しかし、日常臨床の流れでは印象採得、補綴物作製、口腔内装着という簡略化されたステップが多く三者間でのコミュニケーションがきちんとはとれていない場合が多いように思われる。

この流れでもトラブルが起きないケースもあるが、審美領域あるいは咬合再構成を必要とする症例においては、基礎資料（スタディモデル・口腔内写真・デンタルX線・パノラマX線・歯周検査表）に基づいて診断用WAX UPを行い、それぞれの立場で最良の治療ゴールをイメージし検討することが重要である。

また治療の流れの中で口腔内状況の変化に対応するために、三者間での再評価を繰り返し、最終的な決定には、患者を交えてなされるべきで三者間のイメージが患者満足につながるようにコミュニケーションを図る事が大切である。

今回、咬合再構成の症例を通してラボサイドで出来る情報の提示や各ステップにおける役割、注意点を提示したいと思う。